

KYOBASHI ART WALL GROUP EXHIBITION

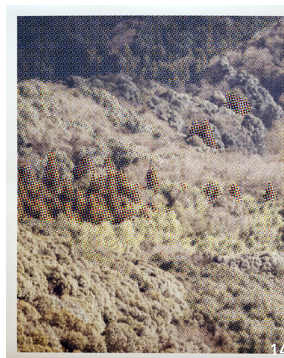
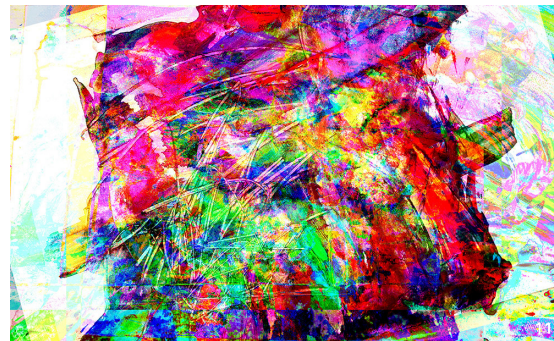
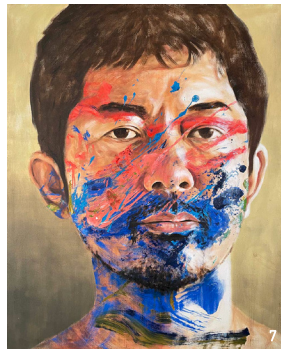
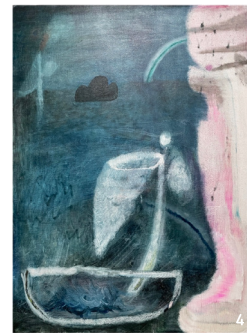
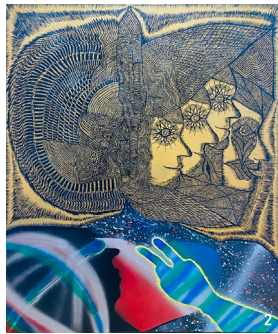
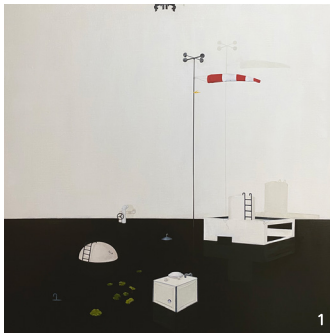
Vol.1 | 2025年
7月25日(金) — 8月7日(木)
有馬莉菜 | コケシスキー | 中井伸治 | ネルソン・ホー | BAKKY

Vol.2 | 2025年
8月26日(火) — 9月6日(土)
奥山広樹 | 加藤 立 | 笹埜八郎 | SAKAMOTO ENTERTAINMENT

Vol.3 | 2025年
10月28日(火) — 11月8日(土)
大竹奨次郎 | 諏訪 葵 | 戸田沙也加

Vol.4 | 2026年
2月26日(木) — 3月11日(水)
荒井佳能 | 岩竹理恵 | 高橋喜代史 | チャン・ジンウェン

会場：TODA BUILDING 3F APK ROOM

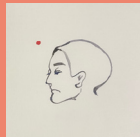


1. 有馬莉菜《屋上》2021年、2. BAKKY《BAKKY POSE》2022年、3. コケシスキー《Hole》2021年、4. 中井伸治《たぐいま》2022年、5. ネルソン・ホー《編むこと、思い出すこと》2022年、6. 奥山広樹《夜》2021年、7. 加藤 立《Self Portrait with Blue Michigan》2023年、8. 笹埜八郎《無人販売の野菜たち》2021年、9. SAKAMOTO ENTERTAINMENT《Re:Orange_Peel_Piece》2023年、10. 大竹奨次郎《Untitled》2022年、11. 諏訪 葵《色と揺れ》2022年、12. 戸田沙也加《signal》2021年、13. 荒井佳能《Emergency》2022年、14. 岩竹理恵《Atopon_DSC05669》2019年、15. 高橋喜代史《POSTER》2018年、16. チャン・ジンウェン《冬夜》2022年

KYOBASHI ART WALL GROUP EXHIBITION

2021年から2024年まで建設時のTODA BUILDINGの仮囲を活用し、アーティストの創作や発表の場を提供してきたプログラム「KYOBASHI ART WALL—ここから未来をはじめよう」。2024年11月のTODA BUILDING開業に先駆けて実施してきたプログラムの最後を締めくくる本グループ展は、ビル3階のAPK ROOMにて16名の入選作家による展覧会を4期に分けて開催します。入選作品に限らず、アーティストが今見せたい作品を展示し、アーティストたちの“現在”を紹介します。会期毎に共通点を持つアーティストが集いながらも、それぞれの活動フィールドで育んできた表現の多様さを感じられるでしょう。

Vol.1 | 2025年 7月25日(金)—8月7日(木) | 幼少期の自身の体験や視覚的に得たイメージから制作へと繋げているアーティスト



有馬莉菜 | ARIMA Reina

1988年東京都生まれ。2015年東京芸術大学大学院修士課程美術研究科絵画専攻修了。“場所”、“感覚”、“記憶”を基に、平面油彩を制作している。2011年トーキョーワンダーウォール賞。2012年シェル美術賞入選。2015年損保ジャパン日本興亜美術賞入選、テラダアートアワード TERRADA 賞。以降、国内外で展示を行う。



コケシスキー | Kokeshisky

香川県生まれ、東京在住。多摩美術大学デザイン科卒業後渡米。Pratt Institute(ニューヨーク)卒業。帰国後は、デザイン業に従事する傍ら絵画制作を開始。2016年、制作のフィールドをファインアートへと移し、初個展を開催。近年は戸田建設(東京・京橋)主催の個展や京都蔦屋書店にて個展形式で作品を発表するなど、関東関西を中心に活動している。



ネルソン・ホー | Nelson HOR

1998年マレーシア、ペナン生まれ。2021年多摩美術大学日本画専攻卒業。メンタルヘルスやLGBTQに対する差別など現代の社会問題をテーマにした絵画、刺繍、インスタレーションなどの作品を制作している。近年の展示に、2023年FOCUS LONDON(Saatchi Gallery/ ロンドン)、2022年Memory is a Garden(GALLERY ETHER/ 東京)。2022年「アートアワードトーキョー 丸の内」審査員建畠哲賞。



BAKKY

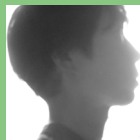
宇宙との意識のつながりを感じながら絵を描いている。創作においては、今この星で生きている自分とは違う宇宙の自分にコンタクトし、シンクロする。瞬間的・新鮮なひらめきを重要視し、身体と意識を最大限に活かした表現を心がけている。人間にはなぜ身体があり、意識があるのかを模索し、「BAKKY is art」をテーマに制作している。



中井伸治 | NAKAI Shinji

1977年大阪府生まれ。多摩美術大学卒業。自身の体験やイメージから物事の輪郭を直接触れられる表現を絵画や写真を通して模索している。2010年トーキョーワンダーウォール賞。2019年第2回枕崎国際芸術賞準大賞。2021年IMA next THEME#24 MEMORIESショートリスト入選。

Vol.2 | 2025年 8月26日(火)—9月6日(土) | 「誰か」の存在を作品に投じストーリーを立ち上がらせる作品を展開するアーティスト



奥山広樹 | OKUYAMA Hiroki

1982年北海道生まれ。2008年多摩美術大学卒業。その後写真スタジオに就職。2010年よりフリーランスで活動を続け現在に至る。制作は発見する事と同時に己の欠如したスキマの補完であると捉え、主に写真を使った平面、絵画作品で表現を実践している。



笹埜八郎 | SASANO Hachiro

1958年兵庫県生まれ。日常生活の中から、ふと心に引っかかった場面を取り上げ制作する。「なぜ気になったのか?」「他の人たちにはどう見えているだろうか?」「自分が受けた感じを誰かと共有することはできるだろうか?」などの思いを巡らせながら、様々な境界を越えた新しい世界が広がることを期待して活動している。



加藤 立 | KATO Ryu

1979年愛知県生まれ。2003年東京芸術大学建築科卒業、現在東京在住。主な展示・受賞に、2024年「日本国憲法展2024」(青山目黒)、2024年「Art Fair Beppu2024」、2024年個展「未来のポートレイト」(横浜市民ギャラリー)、2023年ACYアーティストフェローシップ、2023年「広島市現代美術館コレクション展」(広島市現代美術館)、2021年「第24回岡本太郎現代芸術賞」入選《鑑賞者》。



SAKAMOTO ENTERTAINMENT

1997年熊本県生まれ。2020年多摩美術大学統合デザイン学科卒業。素材を研究し、新たな視点からものを見つめ直しデザインやアートに落とし込んでいる。2021年SHIBUYA AWARDS入選。2022年muni art awardファイナリスト、アートオリンピック入選、長亭GALLERY展入選。

Vol.3 | 2025年 10月28日(火)—11月8日(土) | 実験的に事象の見方を変え続け、変化を捉えて制作に繋げるアーティスト



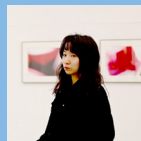
大竹奨次郎 | OTAKE Shojiro

1994年東京都生まれ。2020年武蔵野美術大学油絵学科卒業。卒業後の活動として、個展を毎年開催。2020年「花咲く絵画たちの光」(マキイマサルファインアーツ/ 東京)、2021年「花についての花 魚についての魚 街についての街」(リバーアンドコーヒーギャラリー/ 東京)、2022年「竜泉」(Liamgallery/ 東京)など。



戸田沙也加 | TODA Sayaka

醜さの中に内在する美しさや暴力性を、外来種の動植物や女性の姿を通して絵画や写真、映像などを使用し表現する。近年は友人や家族など身近な関係から生まれた問いや、ジェンダーについて扱った作品を制作。2025年6月に横浜美術館で個展「沈黙と花」を開催。



諏訪 葵 | SUWA Aoi

1991年東京生まれ。2025年、東京藝術大学大学院美術研究科博士後期課程修了、同博士号取得。現象を探りながら作る実験的なインスタレーションと平面作品の制作、学際的な活動に取り組む。文化庁メディア芸術クリエイター育成支援事業の発表支援を受け、2024年に自主企画の「まだ見ぬ識閥」を日本とドイツで発表。

Vol.4 | 2026年 2月26日(木)—3月11日(水) | あらゆるアプローチで疑問を浮き彫りにするアーティスト



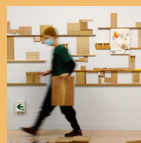
荒井佳能 | ARAI Yoshitaka

2003年宮城県生まれ、東北芸術工科大学芸術学部美術科洋画コースに在学中。アートとデザインの横断的なアプローチで制作を行い、絵画を中心に、グラフィック・インスタレーション・サウンドなど表現は多岐にわたる。絵画ではドローイングをベースに制作し、ドローイングを「自己を透過する解体装置」と位置付けている。



高橋喜代史 | TAKAHASHI Kiyoshi

「抵抗の美術史」の系譜に連なり、パフォーマンスや言葉を用いた映像作品や立体作品を制作。近年は、社会問題と個人的な感情を重ね合わせた映像インスタレーションや、言葉の多面性を立体化した作品を発表している。2012年より展覧会、アートスペース、アートスクールの企画運営にも携わる。2015年一般社団法人PROJECTA設立。



岩竹理恵 | IWATAKE Rie

近年の展示に、「開館30周年記念 MOT コレクション9つのプロフィール1935→2025」(東京都現代美術館)、「岩竹理恵+片岡純也 X コレクション 重力と素材のための図鑑」(神奈川県立近代美術館 鎌倉別館)、「瀬戸内国際芸術祭2022」、「2017 BankART Under35」(BankART Studio NYK/ 横浜) など。



チャン・ジンウェン | CHANG Ching-Wen

1979年台湾台中生まれ。2023年多摩美術大学大学院博士後期課程美術専攻修了、同博士号取得。主な展示に、2022年「記憶容器」SICF22 EXHIBITION 部門グランプリアーティスト展(スパイラルガーデン/ 東京)、2024年2024台北美術奨(台北市立美術館/ 台湾)、「箱と生活の断片」(GALLERY ETHER/ 東京)、2025年「光のかたち・影の記憶」(gallery Unfold/ 京都)などがある。

開催概要

タイトル：KYOBASHI ART WALL Group Exhibition

会期：Vol.1 2025年7月25日(金)～8月7日(木) Vol.2 2025年8月26日(火)～9月6日(土) Vol.3 2025年10月28日(火)～11月8日(土) Vol.4 2026年2月26日(木)～3月11日(水)

時間：11:00～19:00 (最終日のみ17:00まで)
※各会期の初日は17:00からオープニングレセプションを開催します。

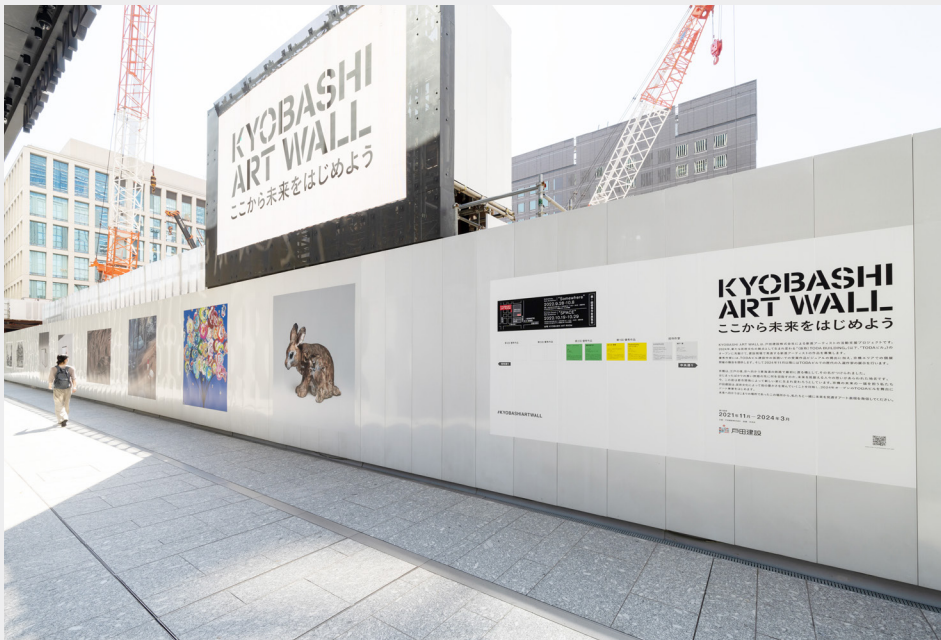
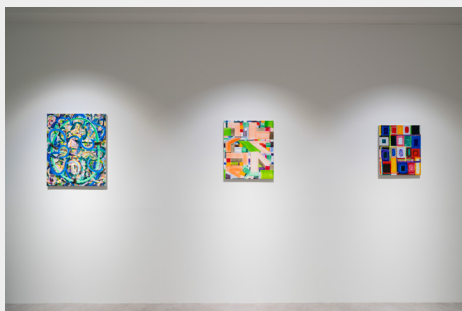
休場：日・月

会場：TODA BUILDING 3F APK ROOM 東京都中央区京橋 1-7-1

出展作家：荒井佳能／有馬莉菜／岩竹理恵／大竹奨次郎／奥山広樹／加藤 立／コケシスキー／笹埜八郎／諏訪 葵／高橋喜代史／チャン・ジンウェン／戸田沙也加／中井伸治／ネルソン・ホー／BAKKY／SAKAMOTO ENTERTAINMENT(五十音、アルファベット順)

主催：戸田建設株式会社





写真撮影：加藤 健

KYOBASHI ART WALL

ここから未来をはじめよう

「KYOBASHI ART WALL—ここから未来をはじめよう」とは

2024年11月に開業した TODA BUILDING の建設現場の仮囲を活用して、アーティストの創作や発表の場を提供するプログラムです。2021年よりスタートし、2024年までの間半年に1回、全4回にわたり作品を募集、優秀作品及び奨励作品を選出し、TODA BUILDING 建設現場の仮囲での展示のほか、各優秀作家の展覧会を開催しました。そして、この度ビル開業後の「ART POWER KYOBASHI」の取り組みとして TODA BUILDING にて入選作家による展覧会を開催します。

アクセス

会場：TODA BUILDING 3F APK ROOM 東京都中央区京橋 1-7-1

電車をご利用の方	JR各線「東京駅」八重洲中央口	徒歩 7 分
	東京メトロ銀座線・東西線、都営浅草線「日本橋駅」B1出口	徒歩 5 分
	東京メトロ銀座線「京橋駅」6 番出口	徒歩 3 分
バスをご利用の方	都営バス東15/ 東16「通り三丁目」	徒歩 3 分
	江戸バス北循環「八重洲通り西」	徒歩 2 分
	メトロリンク日本橋「京橋一丁目」	徒歩 2 分



ART POWER KYOBASHI

<https://www.apk.todabuilding.com>

ART POWER KYOBASHIとは、2024年11月のTODA BUILDING 開業とともに生まれた新たなアートプログラムの総称です。

